

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 75 分

## 解答形式

記述, 計算, 論述, 選択

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

## 出題の特徴や昨年との変更点

例年同様, 論述問題が出題されている。(今年度は, 60 字 2 題, 45 字 1 題)

昨年度は出題されなかった計算過程を書かせる問題が, 今年度は復活した。

## その他トピックス

昨年度に引き続き, 有機化学では反応機構が題材として扱われている。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	記述 選択 計算	金属の反応 化学反応と熱 電離平衡	化学	鉄, 銅の反応に加え, 塩化銀の格子エネルギーや溶解エンタルピー, 鉄の水和イオンの電離平衡に関する内容である。	標準
[2]	計算 記述 論述 選択	反応速度 化学平衡	化学	反応速度に関して, 実験結果をもとに反応式や反応速度式などを考える内容である。アレニウスの式を用いた活性化エネルギーの算出, 化学平衡の内容も含まれている。	標準
[3]	記述 論述 計算 選択	炭化水素 芳香族化合物	化学	炭素数 4 の不飽和炭化水素 (アルケン, アルキン, シクロアルケン) の構造決定, 芳香族化合物の反応に関する内容である。芳香族化合物の反応では, 反応機構 (炭素陽イオンの安定性) を考える問題も含まれていた。	標準
[4]	記述 計算 論述	油脂 合成高分子	化学	油脂を原料としたバイオディーゼル燃料の合成, ポリエステルのリサイクル, 生分解性プラスチックを題材とした内容である。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

1. 理論・無機・有機とまんべんなく学習しておくこと。
2. 論述問題が多いので, 平素から書く練習をしておくこと。
3. 煩雑な計算も出題されるので, 普段から筆算練習に力を入れておくこと。
4. 通り一遍な学習では太刀打ちできない内容も出題されるので, 問題演習を通して, 思考力も養っておくこと。